

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 日本合成化学工業(株)		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 531-0076 大阪市北区小松原町2番4号	
本票作成	部署名：生産技術本部 水島工場 保安環境室				
主たる業種	分類コード	16	業種名：化学工業		
事業の概要	酢酸ビニル、ポリビニルアルコール、エチレン・酢酸ビニル共重合体の製造を行う。				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	生産技術本部 水島工場		倉敷市松江四丁目8番1号	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 21 年度)	(平成 26)年度排出量	目標年度(平成 26 年度)
	137,000 t CO ₂	147,529 t CO ₂	130,000 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 26)年度排出量
	①	生産技術本部 水島工場	147,529 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間： 平成 22 年度 ～ 平成 26 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(26)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	6.5 %	5.0 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 工場の製品数量の年度合計値 177,286t/年(平成26年度)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(26)年度	目標年度
		0.890 t CO ₂ /(t)	0.832 t CO ₂ /(t)	0.845 t CO ₂ /(t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 26 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

過去5カ年度(平成22～26年度)のうち、製品数量が最も高かったことやCO₂排出量算定に用いる電気(中国電力)による実排出係数が0.000738(平成25年度用)から0.000719(平成26年度用)へ下がったこともあり、目標年度(平成26年度)に原単位当たりの排出量の目標を達成できた。

【推進体制】

省エネ法も踏まえて、工場エネルギー管理者と共に各課(製造/技術/事務)長をエネルギー管理者に任命し、省エネルギー(エネルギー起源のCO2排出量の削減)を推進する体制を整えている。また、「省エネプロジェクト」により具体的なエネルギー起源のCO2排出量削減案の計画及び実行している。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
生産技術本部 水島工場	<p>(平成26年度実施分)</p> <p>スチームトラップの全数点検及び適正調整 (CO2削減量 116t/年) 照明設備の変更 (白熱灯からLED照明への変更:CO2削減量 29t/年) 高圧電動機の更新 (省エネ型の採用:CO2削減量 109t/年) ポンプのインバータ化 (CO2削減量 127t/年)</p> <p>(今後実施予定分)</p> <p>スチームトラップの全数点検及び適正調整 (CO2削減量 80t/年) 照明設備の変更 (白熱灯から高効率照明器への変更 :CO2削減量 50t/年) 冷凍機の更新 (高効率化機器の採用:CO2削減量 430t/年) 蒸留塔の運転条件変更 (CO2削減量 250t/年) 送水ポンプの自動制御化 (CO2削減量 570t/年)</p>

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

--